

検査部だより

第16号 平成29年8月

【血液製剤について】

病院で使用する血液製剤はすべて日本赤十字社で献血した血液です。日本赤十字社では献血で頂いた血液を検査し、安全な血液製剤として処理します。

今回の検査部だよりではそんな血液製剤について少しお話ししたいと思います。

- **赤血球濃厚液**(Red Cell concentrate ; RBC)
もっとも使用頻度の多い血液製剤です。



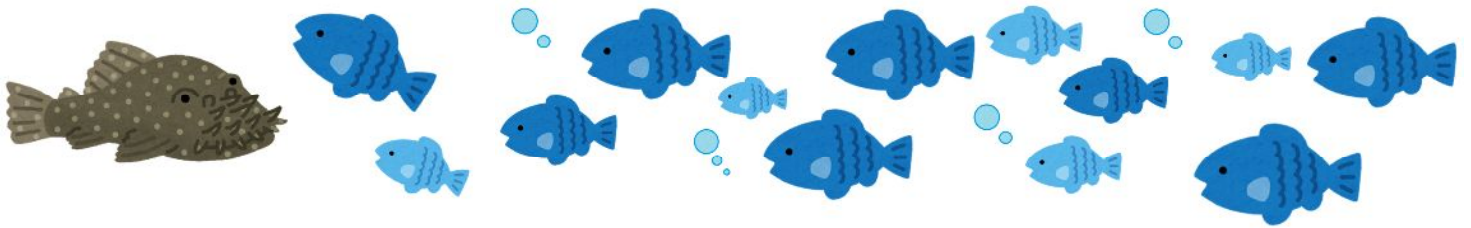
血液型に応じて、**A型**：黄色、**B型**：白色、**O型**：青色、**AB型**：ピンク色、のラベルが貼られています。

輸血の目的 は、からだ全体へ十分な酸素を供給することです。
また、急性あるいは慢性の出血に対する治療および貧血の急速な補正を必要とする病態に使用された場合、最も確実な効果を得ることができます。

保存 2～6℃の冷蔵庫で保管します。

期限 採血後 21 日間使用可能。
※どの血液製剤も元はヒトから採取した血液、すなわち「生き物」ですので、期限(寿命)があります。





• **血小板濃厚液**(Platelet Concentrate ; PC)



袋の形が2種類
あります

輸血の目的 は、血小板成分を補充することによる止血です。

保存 20~24℃で揺らしながら保存します。
血小板濃厚液は揺らして保存を行わないと、段々バックの中が酸性に傾いてゆき、血小板が酸で溶けてしまいます！

期限 採血後 4 日間使用可能です。

• **新鮮凍結血漿**(Fresh Frozen Plasma ; FFP)

輸血の目的 は、血漿因子(特に凝固因子)を補充することにより、止血の促進効果をもたらすことです。

保存 凝固因子は常温や冷蔵庫で保管すると、3時間ほどで元の数の半分ほどに減ってしまいます。したがって-20℃以下の温度で凍らせて保管します。
使用時にはこれをぬるま湯で溶かして液状にします。

期限 採血後 1 年間使用可能です。



箱の中身

これらの血液製剤は、安全性の高いものではありませんが、感染の可能性が全く無い訳ではありません。輸血を受けて3ヵ月後には、感染症の検査を受けることをお勧め致します。

